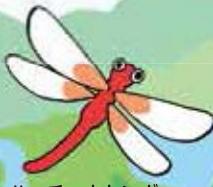


考えてみよう!

私たちと生き物とのかがわり



ハッショウトンボ



オオサンショウウオ



アオバズク



アサギマダラ



Do you
KYOTO?



チマキザサ



京都
CITY OF KYOTO

「生き物」のこと、 知っていますか？



もくじ

1 「生き物」のこと、知っていますか？	3
2 「自然のめぐみ」を考える	9
3 生き物ってみんな大事なの？～つながりの中で生きる私たち～	13
4 京都の自然がはぐくむ「京都らしさ」	17
5 生き物のにぎわい豊かな京都を未来にひきつぐために	21
6 生き物クイズ	26



エコちゃん
京都市の環境マスコット

表紙の生き物の紹介



オオサンショウウオ

オオサンショウウオは、3千万年前から姿を変えていない大きな両生類で、鴨川などに暮らしており、国の特別天然記念物に指定されている貴重な生き物です。



ハッショウトンボ

深泥池（みぞがいけ）などで見られる日本で最小のトンボです。



アオバズク

青葉の茂るところ、東南アジアから子育てのために渡ってきます。京都では、京都御苑などで見られます。木の穴に卵を産んで、ヒナがかえるとガやセミなどを与えます。



アサギマダラ

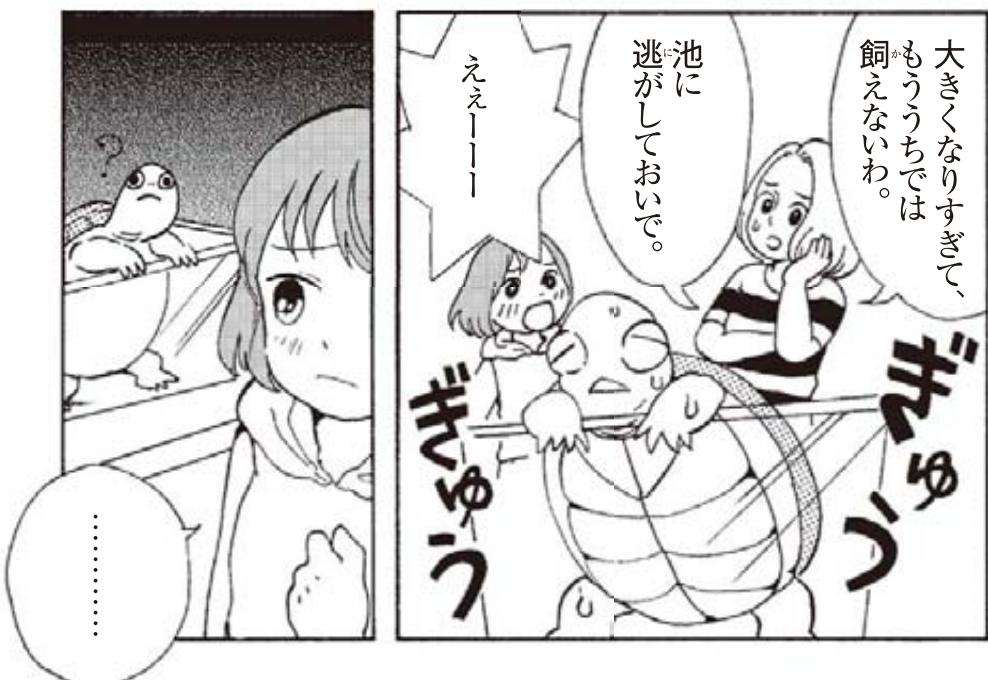
春は南から北へ、秋は北から南へ日本列島を縦断して2000キロもの旅をするチョウとして有名です。源氏物語にも登場するフジバカマなどの蜜を好み、花があると誘われてやってきます。

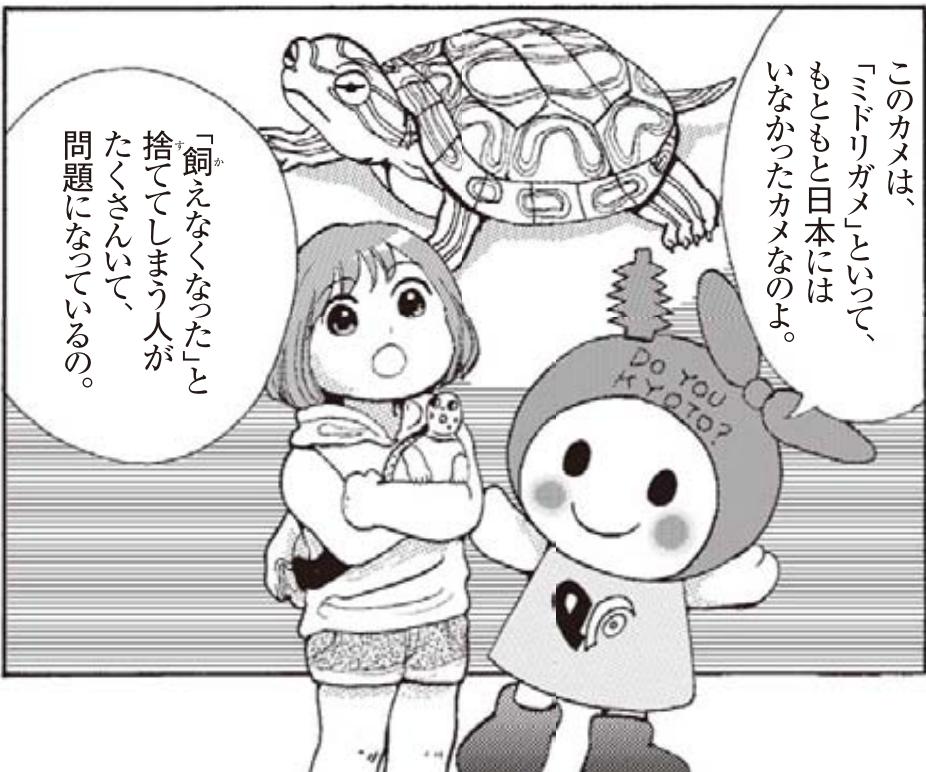


チマキザサ

左京区北部地域のチマキザサは、古くから祇園祭の厄病・災難よけのお守りの材料や和菓子に利用されてきました。

近くの池





「自然のめぐみ」を考える



おうちの人と
話して
みましよう



外来種

もともと日本には暮らしておらず、明治時代（今から約150年前）以降に人間によって日本に持ち込まれた生き物を「外来種」と呼びます。

外来種には、ミドリガメ（正式名は「ミシシッピアカミミガメ」といいます。）のほかに、ブルーギルやブラックバスなどがあります。これらの生き物は、日本にもともと暮らしてきた生き物（在来種）よりも、はるかに生命力が強く、天敵となるような生き物がないため、爆発的にその数を増やし、在来種を減少させ、場所によっては絶滅させるといった影響が出ています。

深泥池

京都で有名な深泥池（みぞろがいけ）は、10万年以上の歴史があり、氷河期の生き残りともいわれる植物をはじめ、たくさんの生き物が暮らすとても貴重な場所であり、ここに暮らしているミツガシワやハッショウトンボなど、生き物全体が国の天然記念物にも指定されています。



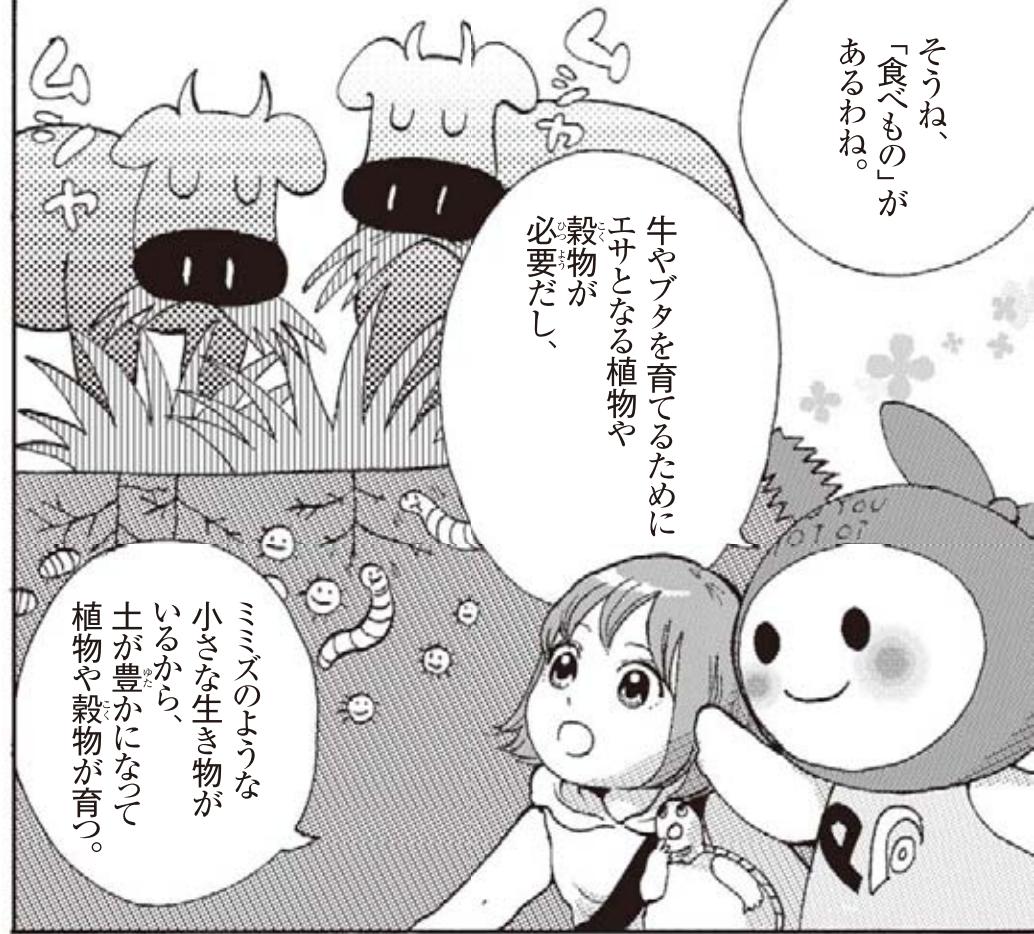
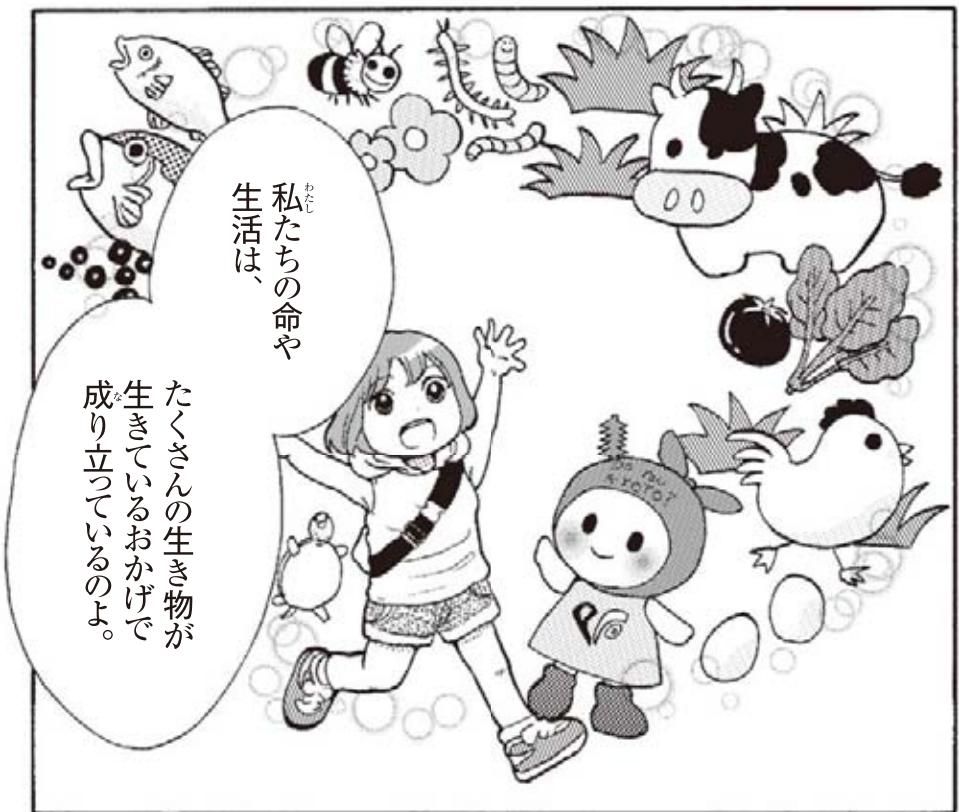
ミツガシワ



ハッショウトンボ（メス）

しかし、今、この深泥池（みぞろがいけ）の環境は大きく変わってきています。それはミシシッピアカミミガメなどの外来種だけの問題ではなく、池の水質環境が変わること、色々な問題が複雑にからみあっています。

そうね、
「食べもの」が
あるわね。



生き物ってみんな大事なの? ～つながりの中で生きる私たち～



「生物多様性」について知っていますか?

長い歴史の中で誕生した様々な環境と、そこで育まれた個性豊かな生き物たちのことを「生物多様性」という言葉で表します。人間もその生き物のつながりの一員として、様々な恵みや豊かさを得てきました。この150年くらいの間に、人間の生活は大きく変わりました。色々な物や人が簡単に世界中を行き来するようになり、様々な開発が進められるようになりました。その結果、自然の環境が大きく変わり、多くの生き物たちが絶滅しないか心配されています。絶滅してしまった生き物の命は、二度と取り戻せません。だからこそ、今、「生物多様性」を守ることが必要なのです!

地球上には森林、河川、湿地、山脈、海…など様々な環境があり、約3,000万ともいわれる、たくさんの種類の生き物たちが暮らしています。そして、同じ種類の生き物の中でも、たくさんの違いがあります。例えば、皆さんも同じ「人間」ですが、お友達と背の大きさや顔が全く同じという人はいませんよね。「生物多様性」を守るには、この3つの段階を意識し、それぞれの豊かな個性を守っていく必要があるのです。



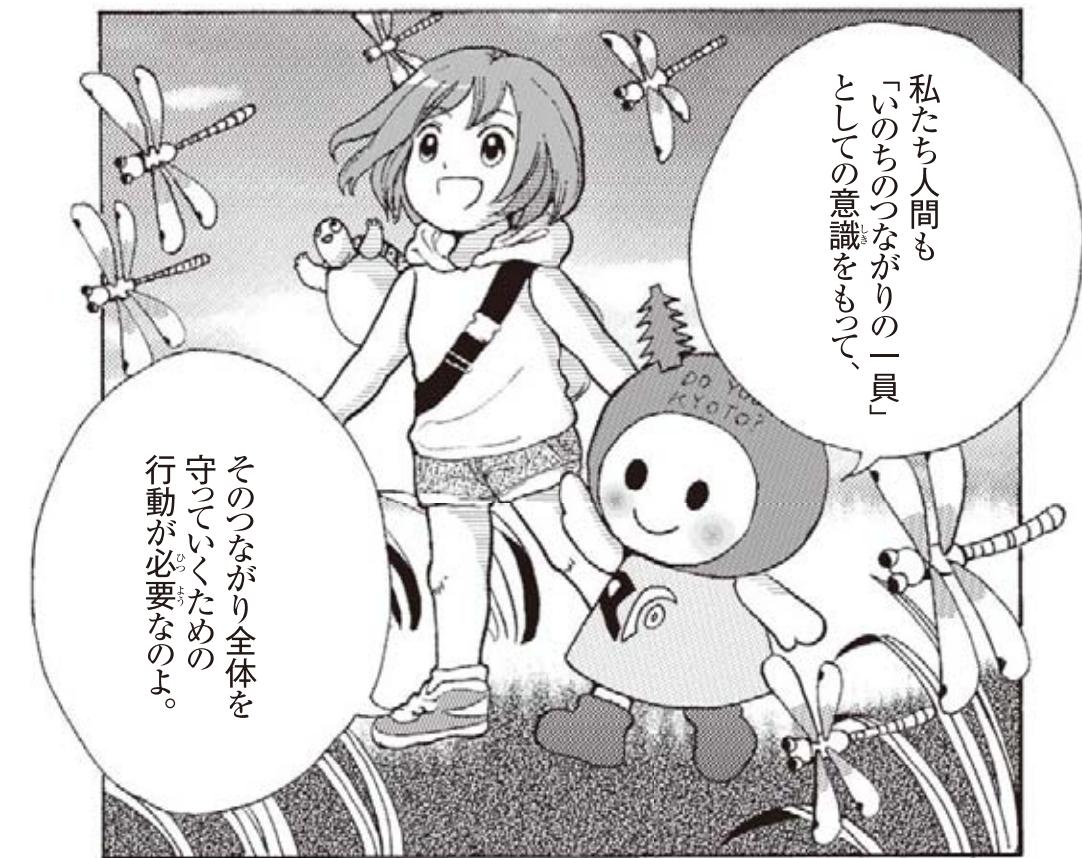
生き物のすみかとなる自然環境がたくさんあること(森、草原、川、池など)



たくさんの種類の生き物がいること(動物、植物など)



同じ生き物でも大きさや色、模様など様々な個性があること



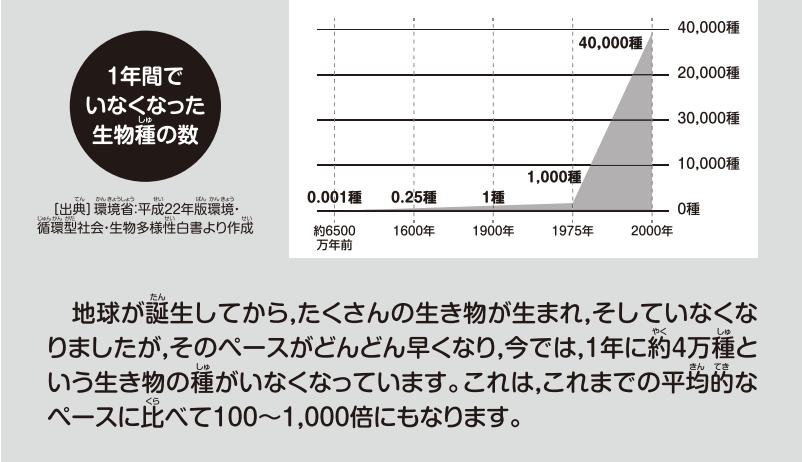
京都の自然がはぐくむ 「京都らしさ」



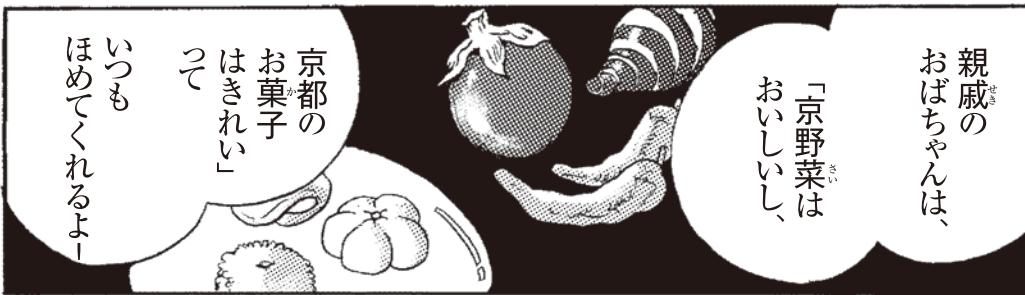
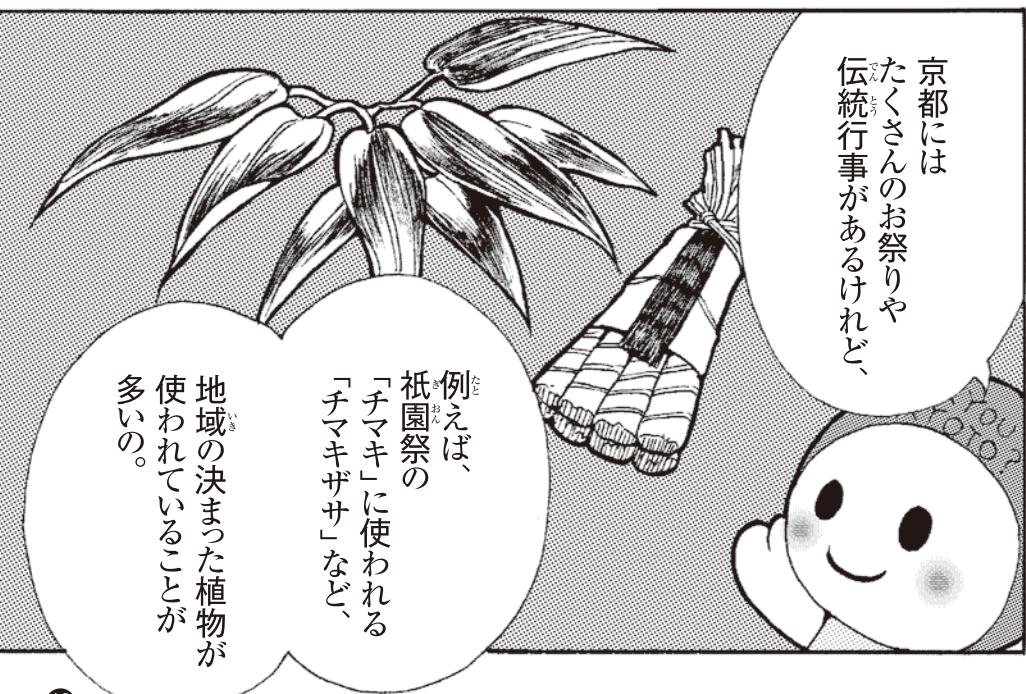
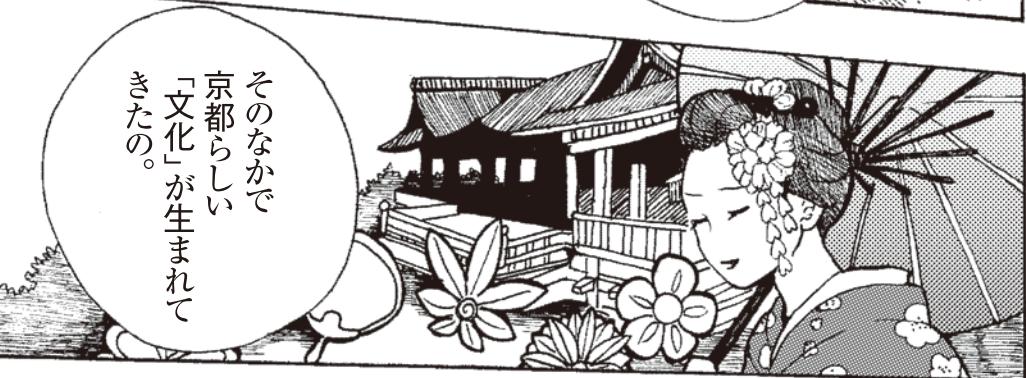
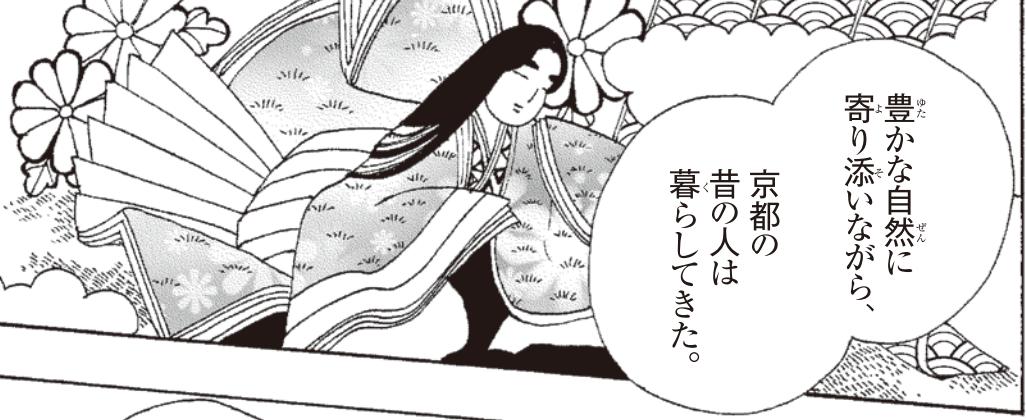
おうちの人と
話して
みましょう

生き物たちのつながり

今、いろんな生き物たちが地球上からすごい勢いでいなくなってしまっているのは、様々な開発や乱獲、外来種の持ち込みなどによって、生き物が本来もっていた、「つながり」を乱してしまったからです。



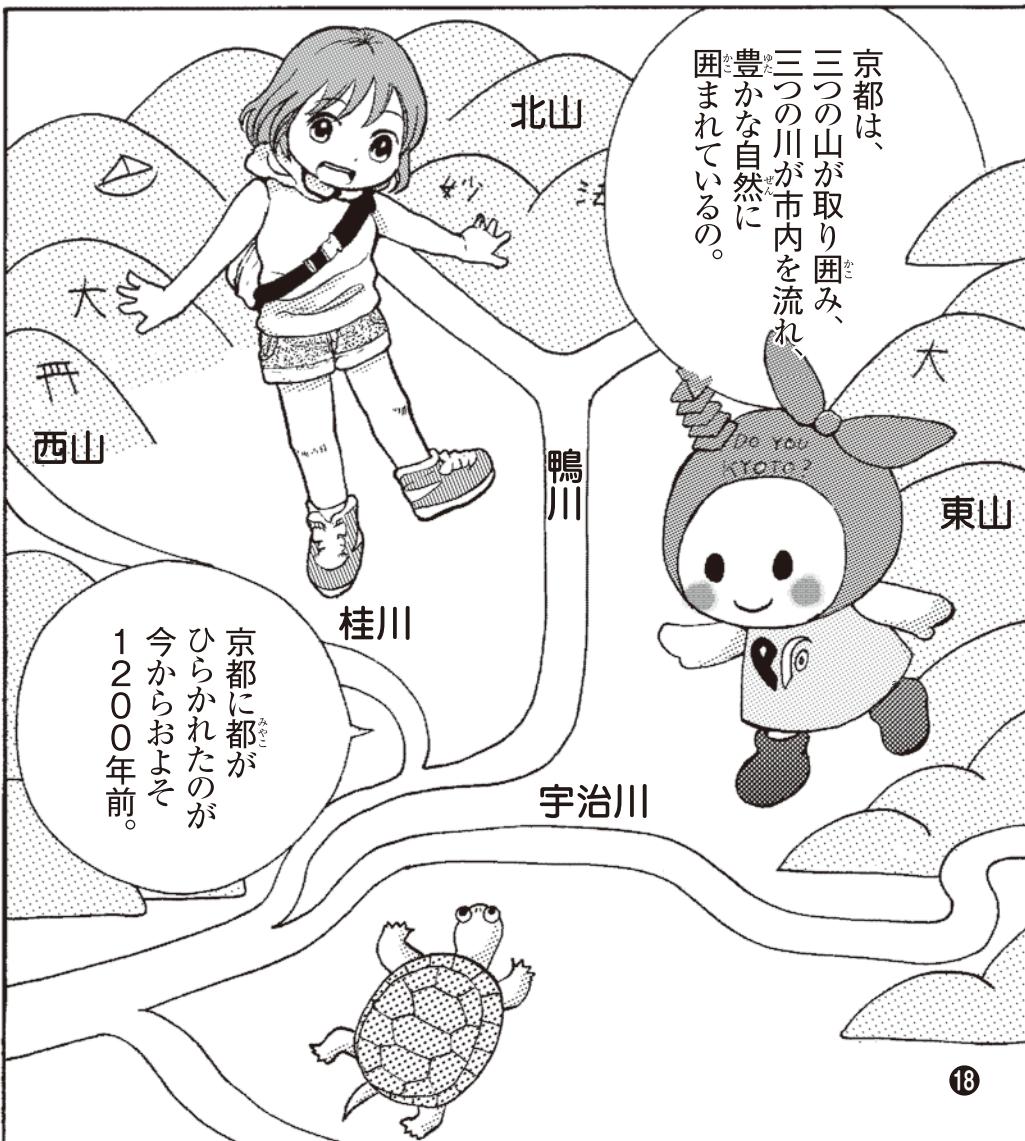
生き物たちが消えていくことを「網目のほころび」に例えてみます。最初は小さなほころびでも、ほころびの隣は弱くなり、切れやすくなる。それがいくつも増えてくるといつか網全体が壊れて使えなくなってしまいます。それは、私たちが安心して生きていくことが難しくなる、ということにもつながります。



いつも
ほめてくれるよー

「京野菜はおいしいし、

親戚のおばちゃんは、



生き物のにぎわい豊かな京都を 未来にひきつぐために

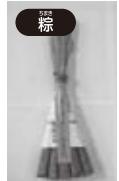


おうちの人と
話して
みましよう



生物多様性と京都の祭りとのかかわり

祇園祭は今から1,100年以上も昔の平安時代に、京の都で流行した病気をしずめ、みんなが病気にならないように祈るために始まった、と言われています。その厄除け（ふりかかる災いをはらい落とすこと）のお守りの粽（まよ）に使われるのが「チマキザサ」という植物です。



チマキザサ再生の取組

京都の暮らしと文化に欠かせないチマキザサですが、2004年から2007年にかけて、「ササの一齊開花」という現象が起こりました。一齊開花とは、タケ・ササの仲間では普通に見られる自然の現象で、およそ60年に一度、一斉に花が咲いて種をつけた後、すべて枯れてしまうのです。これ以降、京都のまちにササの葉が届かなくなりました。

さらに、京都の森では、その後新しく芽吹いてきたチマキザサの芽を増えすぎたシカが食べ尽くしているため、約10年経った今でもササは、枯れた当時のままなのです。そこで、チマキザサを守るため、チマキザサの産地や山鋸町の住民、大学の研究者や京都市などが協力しながら、都会で育てたチマキザサを山に戻す植樹や、シカの侵入を防ぐ柵を設置するなど、チマキザサを守る取組が進められています。

生物多様性と京都の文化とのかかわり

京都の寺社にある日本庭園は、豊富な地下水や湧き水に恵まれた京都の自然環境ならではのものであり、和菓子も、京都のいろんな季節の花などがたくさん取り入れられています。また、今は日本全国どこでも同じ野菜が売られていますが、昔は地域の自然に合った野菜を作っていました。昔の京都の人は、京都で作られた京都にしかない野菜を食べ、育てることを繰り返し、「聖護院だいこん」や「賀茂なす」などの京野菜が守られてきました。

三山と三川

京都市は、大阪平野に連なる南部の盆地に広がり、市街地を取り囲む三山（東山、北山、西山）や三川（鴨川、桂川、宇治川）が織りなす豊かな自然に恵まれており、こうした自然環境が、生物多様性を支える礎となっています。

それが

「つながり」を
意識する、
ということなの。

今、京都の生き物を
育む豊かな自然を
しっかりと守つていこう、
という動きも
高まってきたいるのよ。

今日は、
いろいろなことが
分かつた。

うん！

かめ丸は最後まで
家で飼えるように
お願いしてみるね！

まずは、
分かつたことを
おうちの人によ
ちゃんと話して、

例えば、
「チマキザサ」を
みんなで守る
取組が始まっ
ているわ。

どんなことが
始まっているの？

ことちゃんも
動物園や水族館に
行ったり、

京都の野菜を
食べたり、

できることから
始めようね。



自然観察会「親子生きもの探偵団」の開催

京都市の生物多様性を学び、保全にむけて行動する人を育てる環境教育・普及啓発の一環として、児童とその保護者を対象とした自然観察会「親子生きもの探偵団」を開催しています。

京都市御苑で子育て中のアオバズクを参加者みんなで静かに見守りました。
深泥池(みぞろがいけ)でヤゴなどを採集中。

京都府レッドリスト

絶滅しそうな生き物について調べた「京都府改訂版レッドリスト2013」には、数が少なくなり、このまま何もしないと絶滅してしまうかもしれない生き物が掲載されています。

【参考】京都府レッドデータブック情報
http://www.pref.kyoto.jp/kankyo_red/index.html



京都市生物多様性プラン

京都市では、京都ならではの自然環境や伝統文化を後世に受け継いでいくため、目指すべき生物多様性保全の方向性を示す「京都市生物多様性プラン」を策定し、このプランに基づき、生物多様性保全の取組を推進しています。

京・生きものミュージアム

生物多様性専用ホームページ「京・生きものミュージアム—京都市生物多様性総合情報サイト—」は、京都の歴史や伝統文化を育んできた生物多様性について皆様に理解を深めていただくために開設しました。

生物多様性について楽しく学び、生物多様性保全に取り組むための様々なコンテンツを用意しています。

アクセスしてみてね

<http://ikimono-museum.com/>

6 生き物 クイズ



生き物や自然を守るために、ことちゃんが
取った次の行動は正しいと思いますか？
○か×で答えてね！

正しいと思ったら○
まちがってるって
思ったら×だよ！

クイズ①

近所の小川のメダカがいなくなりそう、と聞いた
ので、家で飼っているメダカを放しにいった。

正解は… ×

なぜ、メダカが少なくなってしまったのでしょうか？きっと、メダカにとって暮
らしづらい環境になって、その川でメダカが生き抜いていくのが難しくなった
のでしょうか。生き物を守りたい場合には、まず「どうやったら生き物が暮らしや
すい環境を取り戻せるかを考えることから始めましょう。



おうちの人と
話して
みましょう

家で飼っているメダカが、もともとどこで生まれたか
知っていますか？メダカは泳ぐ力が弱く、また、水伝いにし
か移動できない生き物です。歩いて移動することができる
私たちからすれば、隣り合った近くの川に見えるかもし
れませんが、メダカにとっては、「水の道」でつながったこと
がない川に移動することはできませんから、2つの川の間
では、メダカの「遺伝子」が異なる場合があります。

生物多様性の保全のためには「遺伝子の違い」まで含め
て守っていくことが大切であるとされています。

クイズ①

近所の小川のメダカがいなくなりそう、と聞いた
ので、家で飼っているメダカを放しにいった。

クイズ②

遠足で登った山にとてもきれいな花が咲いてい
たので、家に持ち帰りたいと思ったが、山で自然に
育つ方がいいと思い、そのままにした。

クイズ③

外国の大きくて珍しいカブトムシを家で飼ってい
たが、飼えなくなったので、山に逃がしてあげた。

答えは次のページに！

生き物 クイズの 答え

クイズ③

外国の大きくて珍しいカブトムシを家で飼つていたが、飼えなくなったので、山に逃がしてあげた。

正解は… ×

まんがに登場したミドリガメ(ミシシッピアカミミガメ)は、どうなったでしょうか? 池に逃がさないことが大事だと、ことちゃんは勉強しましたね。カブトムシも同じように、最後まで責任を持って飼うことが大事です。



おうちの人と
話して
みましょう

もともと日本には暮らしておらず、明治時代(今から約150年前)以降に人間によって日本に持ち込まれた生き物を「外来種」と呼びます。なかでも、日本に暮らしてきた生き物(在来種)を減らしてしまうなど、生物多様性への影響が特に大きい種を「侵略的外来種」と呼びます。

生物多様性を守る上で、外来種に対する対策は国際的にも非常に重要な課題とされており、様々な取組が進められています。

生き物 クイズの 答え

クイズ②

遠足で登った山にとてもきれいな花が咲いていたので、家に持ち帰りたいと思ったが、山で自然に育つ方がいいと思い、そのままにした。

正解は… ○

生き物によって移動できる範囲、移動するスピード、すむことができる場所は限られています。それらを大きく超えて私たち人間が生き物を移動させることは、自然のつながりを乱す可能性があります。



おうちの人と
話して
みましょう

野山に生えている野生の植物は、長い時間をかけて土や気候など、植物たちにとってふさわしい場所を選んで、そこで命をつないできました。もし持ち帰る人がたくさんいたら、その山から美しい花は姿を消してしまいます(「乱獲」は、絶滅の大きな原因のひとつです)。「あるべき命を、あるべき場所に」と心掛け、安易な採取や移動は慎みましょう。

同じように、庭に咲いている花を野山に植えることも、自然のつながりを乱すことがあります。

この京都の文化は、私たちの日々の暮らしを心豊かにするとともに、世界有数の観光都市である京都を支える大切な資源でもあります。

しかし今、京都の文化を支えてきた京都の生物多様性も深刻な危機に立たされています。

「生物多様性を守る」というと、「自然を守る」「生きものを大切にする」といったことをイメージされるかもしれません。しかしそれだけではなく、長い歴史が築き上げた「京都らしさ」を引き継いでいくこと、私たち人間も「いのちのつながり」の一員であるということを自覚して、地元の生き物の恵みを持続的に利用しつつ、将来世代も安心して生きられる社会を作っていくことでもあるのです。

ぜひ、お子様と一緒にこの冊子を手に取ってみてください。
そして、いのちと文化にぎわう京都の未来をつくる仲間になっていただけたら幸いです。



用語解説

①国連の主唱により2001年から2005年にかけて行われた、地球規模の生態系に関する総合的評価。95カ国から1,360人の専門家が参加。生態系が提供するサービスに着目して、それが人間の豊かな暮らしにどのように関係しているか、生物多様性の損失がどのような影響を及ぼすかを明らかにした。これにより、これまであまり関連が明確でなかった生物多様性と人間生活との関係がわかりやすく示されている。

（出典 環境省：平成21年版環境・循環型社会・生物多様性白書）

保護者の皆様に知つていただきたいこと

私たちが暮らす地球には、既に知られているだけで約175万種、未知のものも含めると3,000万種ともいわれる生き物が暮らしています。

地球の40億年という長い歴史の中で、森林、河川、湿地、山脈、海、干潟、サンゴ礁など様々な環境が誕生し、生き物たちはその環境に適応して進化し、多様化してきました。

約15～20万年前に地球に誕生したといわれる私たち人間も、いのちのつながりの一員として、自然がもたらす恵みによって生かされてきました。

地球の長い歴史が育んだ生き物たちのさまざまな「個性」と「つながり」、そしてそこから得られる豊かな恵みなどをまとめて「生物多様性」という言葉で表しています。

今、その「生物多様性」は深刻な危機に立たされています。

2005年に国際連合が発表した「ミレニアム生態系評価^①」という調査報告書によると、現在起きている生物種の絶滅速度は、過去の絶滅速度に比べて100～1,000倍ものスピードで進行し、その原因は私たち人間の生活のあり方によるものだとされています。

地球の歴史から比べればほんの一瞬ともいえるこの100年ほどの間に、私たち人間は急激に環境を改変し、その結果として多くの生き物たちが絶滅の危機に立たされています。

それは、長い地球の歴史が築き上げてくれた自然の恵みを得るために仕組みを、私たち自身で壊してしまったということにほかなりません。

京都に都が開かれて1200年。先人たちは京都の自然の恵みに感謝し、時に畏怖の念を抱きながら、祭りや京料理など独自の文化を花開かせてきました。

小学校 年 組 / 名前



● まんが：森つぶみ
シナリオ監修：結・社会デザイン事務所代表 菊池玲奈
(京都市環境審議会生物多様性保全検討部会委員)

制作協力：京都大学大学院 東口涼
発 行：京都市環境政策局環境企画部環境管理課
平成27年5月発行
京都市印刷物第273011号

この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収等へ！
この印刷物は再生紙を使用しています。

京都市 生物多様性保全の取組を進めています！
**生物多様性
プラン**



環境にいいことしていますか？